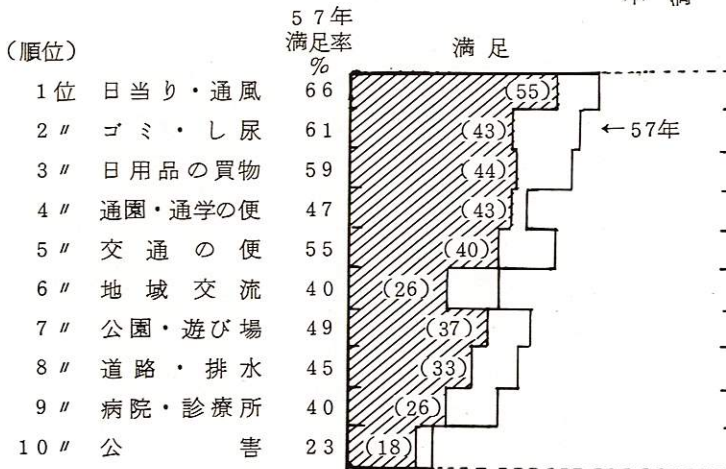
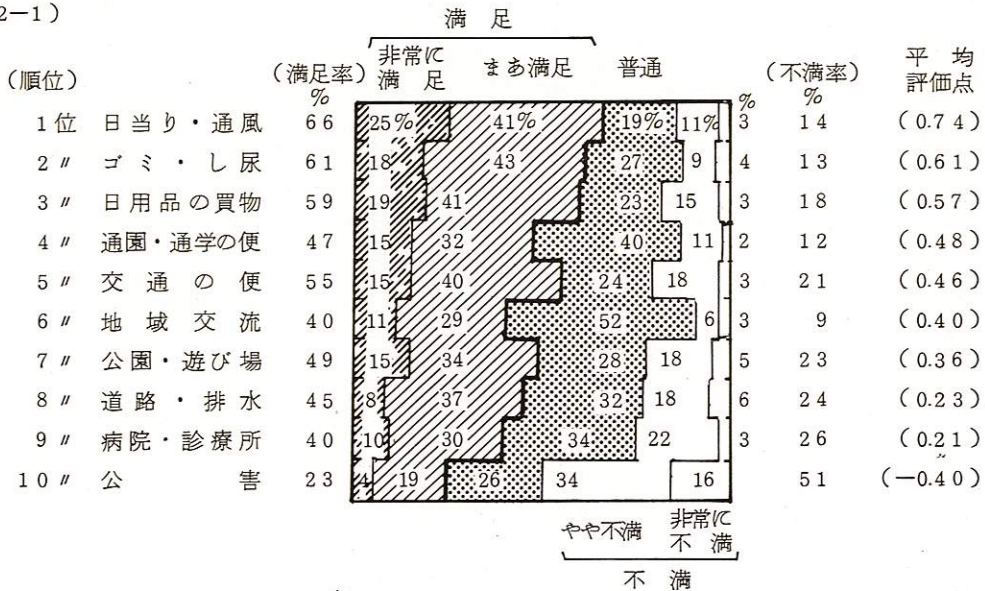


2. 生活環境の評価

2-1. 地域の生活環境 …… 1位「日当り・通風」、2位「ゴミ・し尿」

3. [リスト2呈示] あなたの生活環境について伺いますが、あなたは、地域の住み良さについて、ふだんどのように感じていますか。次の項目ひとつひとつについて、満足であるか、不満足であるかお答えください。

(図2-1)



(注) () は 53年調査(斜線部分)

生活環境の評価としては、居住地域の日常生活に密着した要因10項目の評価、福生市全体の視点から判断する全市的要因8項目の評価、一口に言うての「住み良さ」の総合評価の3つから構成されている。

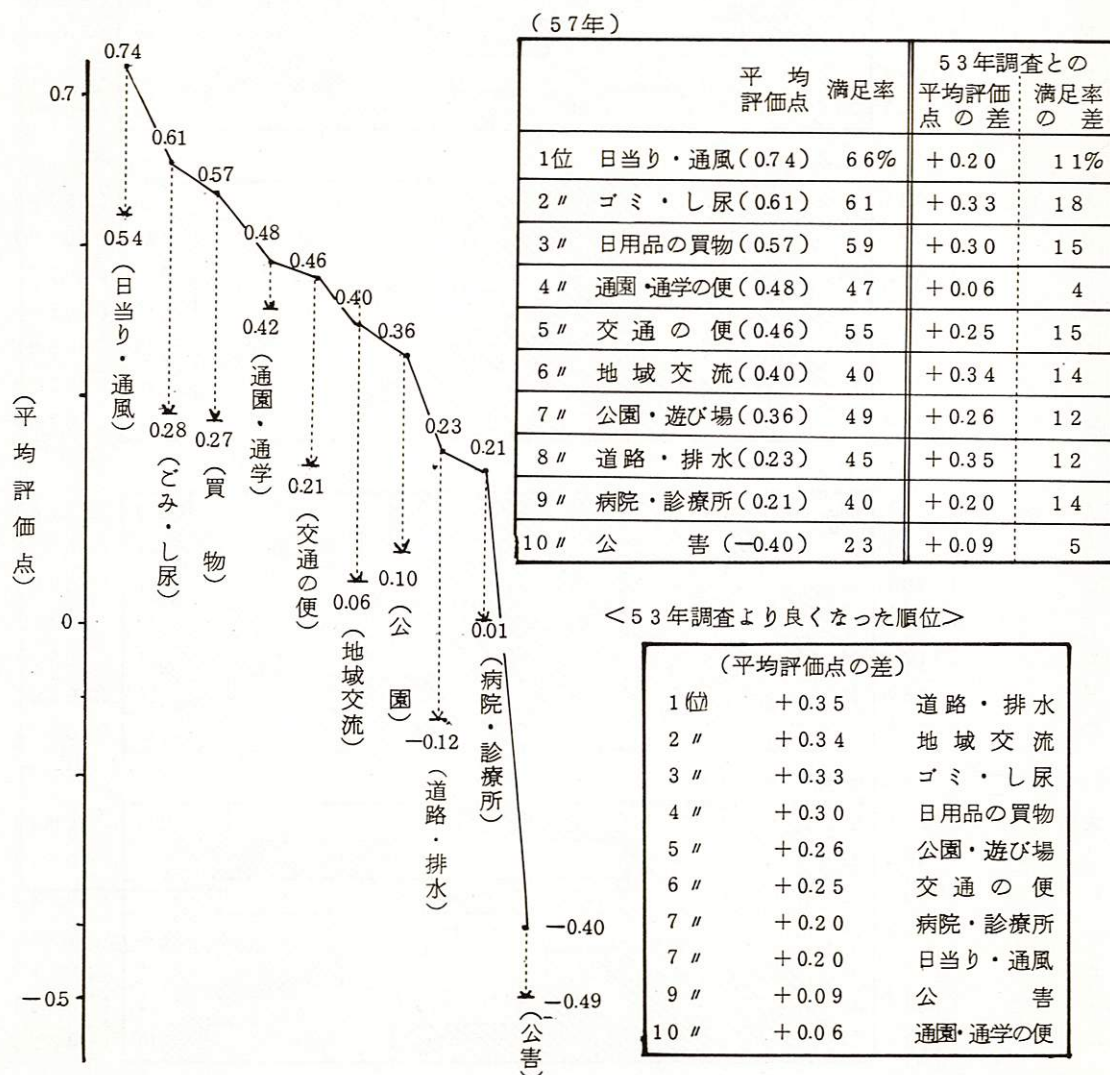
地域の生活環境では(図2-1)、「非常に満足」と「まあ満足」とを加えた満足率が「日当り・通風」(66

%)、「ゴミ・し尿」(61%)、「日用品の買物」(59%)、「交通の便」(55%)の4項目で5割を超え、「普通」の中立的評価をも含めると10項目のうち9項目までが7割以上の好意的評価で占められている。唯一の問題評価は「公害」であって、満足率23%、普通26%、不満率51%と不満評価が満足評価を大巾に上回っている。

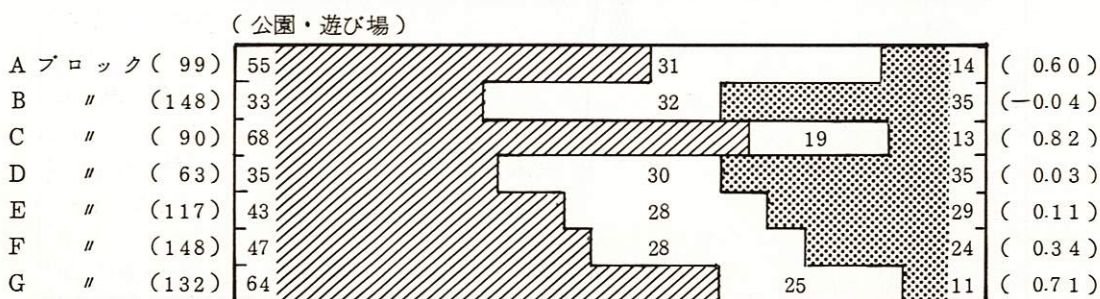
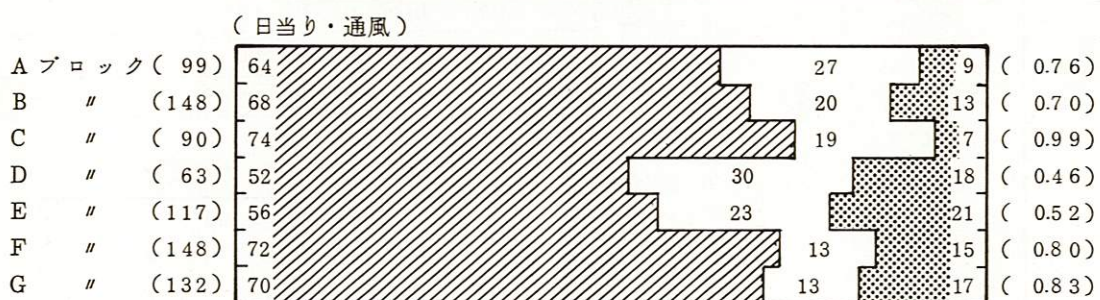
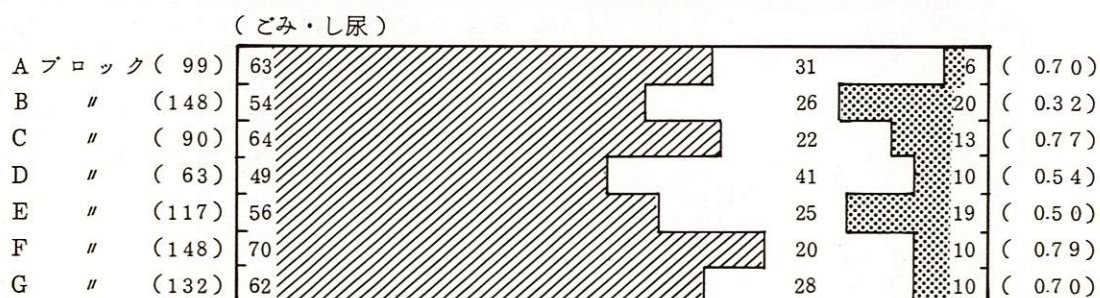
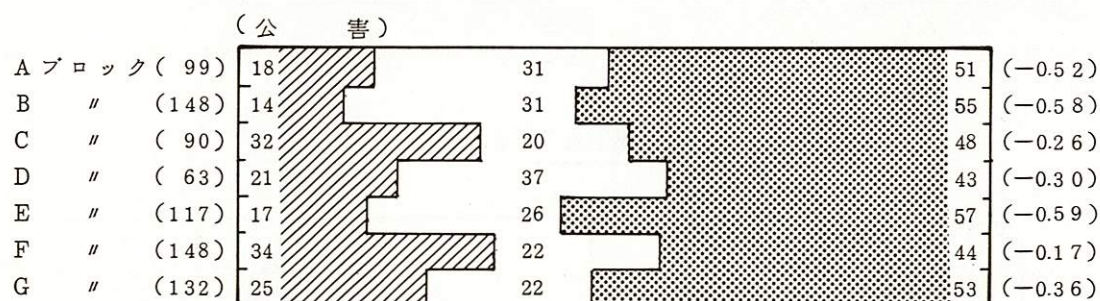
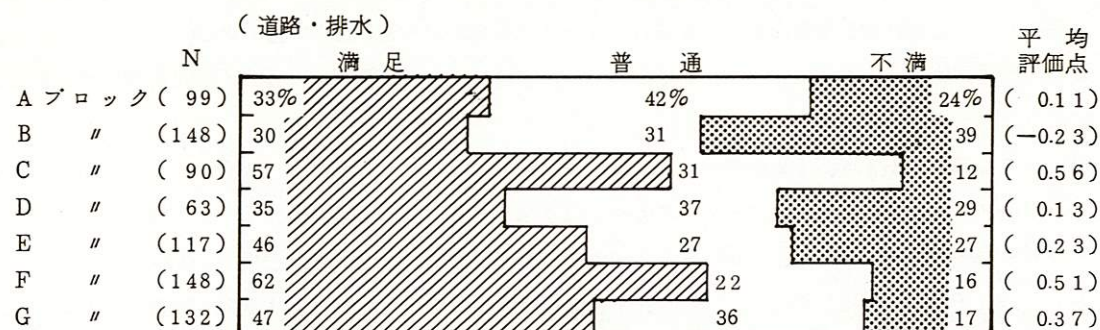
「非常に満足」+2点、「まあ満足」+1点、「普通」0点、「やや不満」-1点、「非常に不満」-2点の得点をあたえ、その平均点が+2点に近づくほど満足が高く、-2点に近づくほど不満の多いことをあらわす平均評価点によって順位をつけると(図2-2)、上位3位は「日当たり・通風」(0.74)、「ゴミ・し尿」(0.61)、「日用品の買物」(0.57)、下位3位は「公害」(-0.40)、「病院・診療所」(0.21)、「道路・排水」(0.23)である。

前回(昭和53年)調査とくらべての特徴は、全項目とも満足が高まったことであり、「通園・通学の便」

(図2-2) 53年と比較した「地域の生活環境」

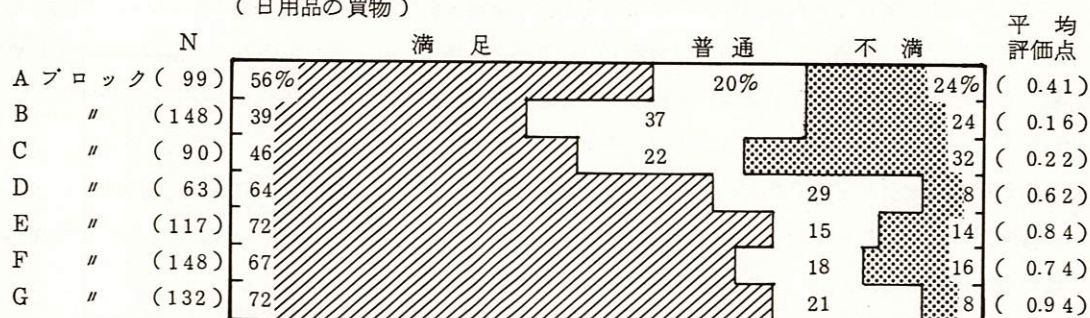


(図2-3) 地域別にみた「地域の生活環境」

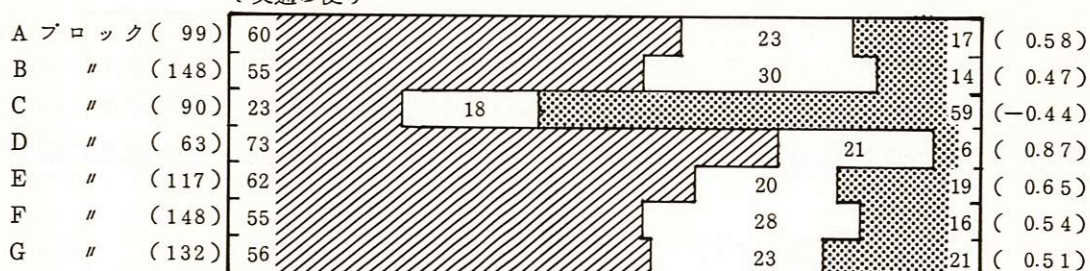


(図2-3つづき) 地域別にみた「地域の生活環境」

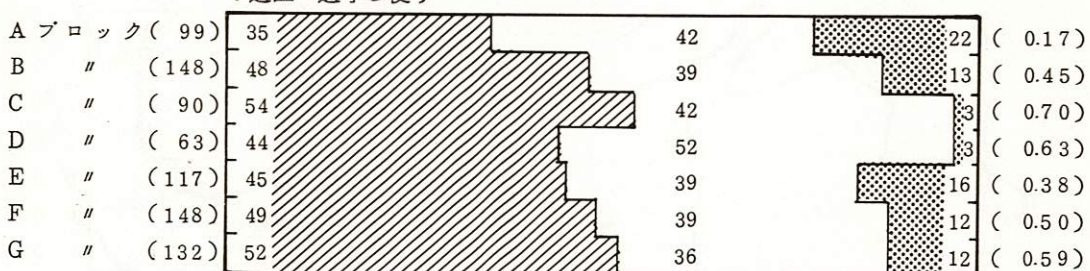
(日用品の買物)



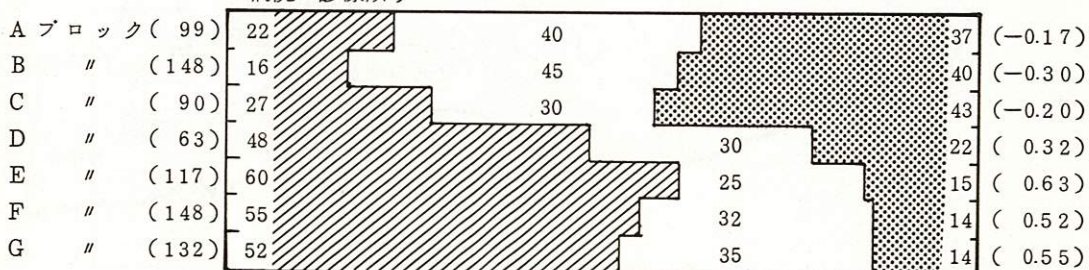
(交通の便)



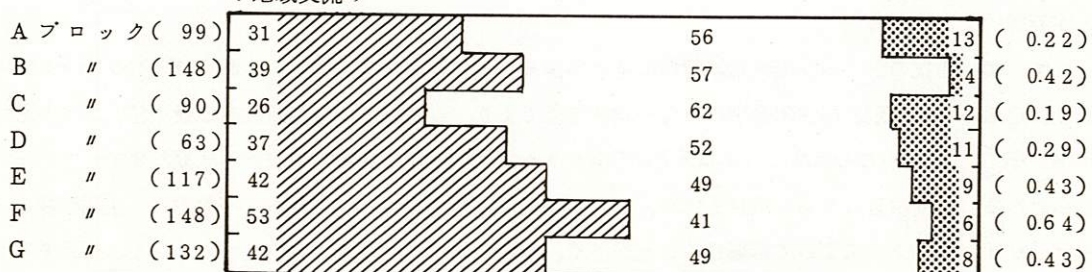
(通園・通学の便)



(病院・診療所)



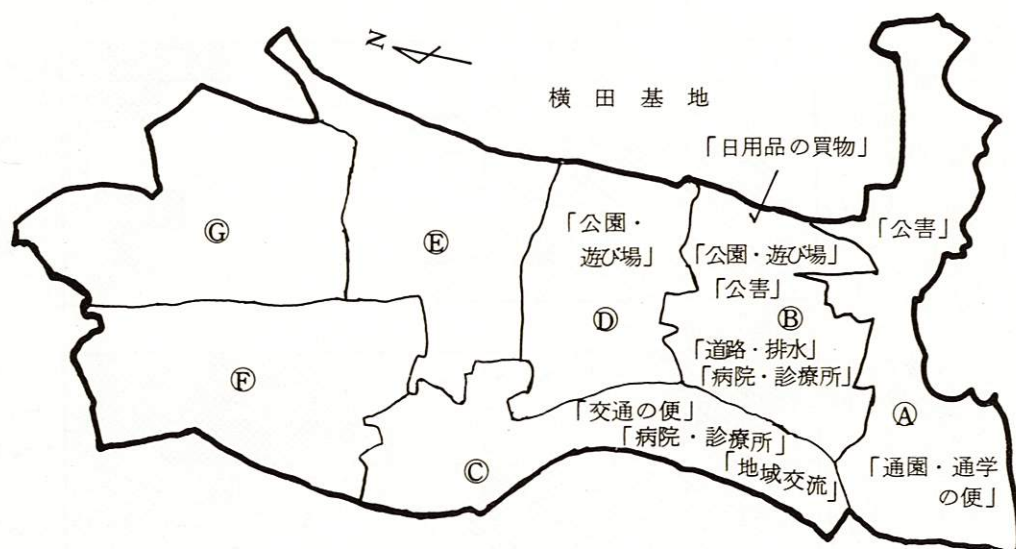
(地域交流)



と「公害」を除く8項目は満足率が10%以上上昇し、したがって平均評価点は0.2点以上多くなっている。前回より評価点が増加した割合で順位づけてみると、「道路・排水」(0.35増)、「地域交流」(0.34増)、「ゴミ・し尿」(0.33増)、「日用品の買物」(0.30増)の順序で良くなっている。「道路・排水」が特に好転したのは、計画的に雨水を多摩川に排水するための「雨水幹線網」が完成し、以前のような雨による溢水現象がなくなったためと思われる。また、「ゴミ・し尿」の評価が好転したのは、昭和60年度100%普及を目標にした公共下水道整備の計画が着々と進行していること、ゴミ収集が東京特別区や他市よりもとくに行き届いていることを転入市民が評価したことが考えられる。さらに「日用品の買物」では大規模小売店舗が福生駅前などに出現したことを、消費者の立場から好感したものと思われる。

地域別にみると(図2-3、2-4)、ひとつの特徴があることに気付く。それは不満が市域の南半分に多く、とりわけBブロック(鍋1・鍋2・富士見台他)は「日用品の買物」「公園・遊び場」「公害」「道路排水」「病院・診療所」などの点で、地域別中一番満足が低い。Aブロック(熊川・内出・福東他)は「公害」「通園・通学の便」の2点で満足が低く、Cブロック(南北田園・志茂1他)は「交通の便」「病院・診療所」「地域交流」の3点、Dブロック(熊牛・牛1・牛2)は「公園・遊び場」の点で満足が低い。

(図2-4) 地域別にみた「不満の環境」



このようにBブロック(鍋1・鍋2・富士見台他)を中心とする市域の南半分に環境不満が集っていることが特徴的である。

さて、福生市民のどういう層が地域環境に強い不満を持っているのだろうか。(表2-1)はライフステージ別、定着パターン別、居住年数別にみた平均評価点であり、各要因について属性内の最小値、つまり最大不満値を○でかこんだが、これによると、不満がライフステージの独身期や家族形成期に集中していることがわかる。10項目のうち9項目までが、これらの若い世帯で占められている。一般的に、生活環境のニーズはライフサイクルによって影響することが多く、それぞれの人生段階で必要とするものを、行政や社会

(表2-1) ライフステージ別、定着パターン別、居住年数別にみた「地域の生活環境」(平均評価点)

	N	日 当 り ・ 通 風	ゴ ミ ・ し 尿	日 用 品 の 買 物	通 園 ・ 通 学 の 便	交 通 の 便	地 域 交 流	公 園 ・ 遊 び 場	道 路 ・ 排 水	病 院 ・ 診 療 所	公 害
市 全 体 (797)		0.74	0.61	0.57	0.48	0.46	0.40	0.36	0.23	0.21	-0.40
ライフ ステ ージ	独 身 期 (90)	0.49	0.38	0.68	0.39	0.48	0.23	0.07	0.23	0.32	-0.42
	家 族 形 成 期 (164)	0.76	0.69	0.37	0.29	0.27	0.29	0.39	0.23	-0.04	-0.63
	家 族 成 長 前 期 (176)	0.73	0.51	0.48	0.58	0.28	0.39	0.41	0.16	0.02	-0.34
	家 族 成 長 後 期 (83)	0.73	0.43	0.55	0.46	0.31	0.25	0.29	0.08	0.11	-0.48
	家 族 成 熟 期 (154)	0.74	0.73	0.75	0.65	0.69	0.56	0.38	0.24	0.35	-0.36
	老 齢 期 ・ 老 人 世 帯 (76)	0.80	0.67	0.66	0.51	0.71	0.63	0.58	0.47	0.55	-0.08
定着 パ タ ー ン	定 着 型 (378)	0.79	0.62	0.70	0.59	0.69	0.55	0.33	0.20	0.35	-0.31
	定 着 志 向 型 (303)	0.73	0.68	0.46	0.42	0.26	0.31	0.45	0.32	0.10	-0.43
	分 解 型 (89)	0.61	0.48	0.45	0.30	0.24	0.17	0.30	0.17	0.01	-0.61
	流 動 型 (27)	0.48	0.07	0.52	0.22	0.11	0.07	-0.11	-0.04	0.04	-0.70
居 住 年 数	生まれた時から										
	20~34歳 (46)	0.54	0.41	0.76	0.39	0.50	0.37	-0.04	0.33	0.35	-0.20
	35~ " (57)	0.89	0.60	0.68	0.65	0.77	0.68	0.61	0.28	0.40	-
	転入者										
	昭和29年以前 (97)	0.53	0.65	0.88	0.70	0.90	0.65	0.22	0.27	0.40	-0.31
	" 30~39年 (124)	0.87	0.59	0.57	0.57	0.55	0.60	0.36	0.21	0.36	-0.45
	" 40~49年 (207)	0.81	0.64	0.63	0.46	0.43	0.27	0.38	0.14	0.19	-0.34
	" 50~54年 (182)	0.66	0.68	0.49	0.41	0.23	0.29	0.46	0.37	0.09	-0.53
	" 55年以降 (84)	0.76	0.49	0.07	0.21	0.15	0.21	0.30	0.08	-0.15	-0.70

○印は各要因ごとの属性内の最小平均評価点(最大の不満グループ)を示す。

(表2-2) 居住年数別にみた「ライフステージ」

	N	独 身 期 %	家 族 形 成 期 %	家 族 成 長 前 期 %	家 族 成 長 後 期 %	家 族 成 熟 期 %	老 齢 期 老 人 世 帯 %	そ の 他 %
生まれた時から (103)		40	11	17	3	17	11	3
昭和29年以前 (97)		5	3	5	8	33	38	7
昭和30年代 (124)		6	2	10	19	45	11	8
昭和40年代 (207)		5	10	40	17	15	4	9
昭和50~54年 (182)		9	45	26	6	6	2	7
昭和55年以降 (84)		12	55	16	2	10	2	4

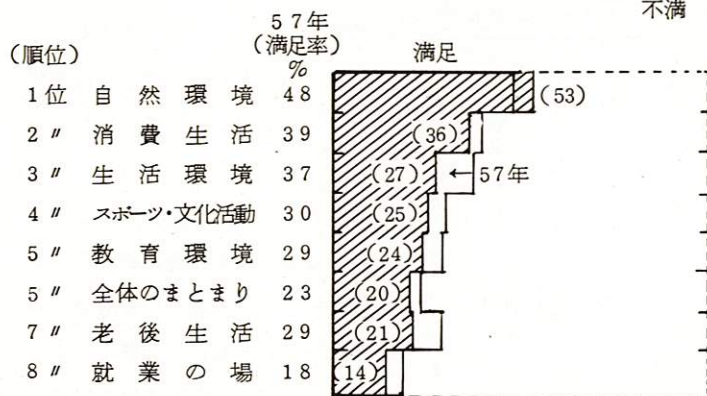
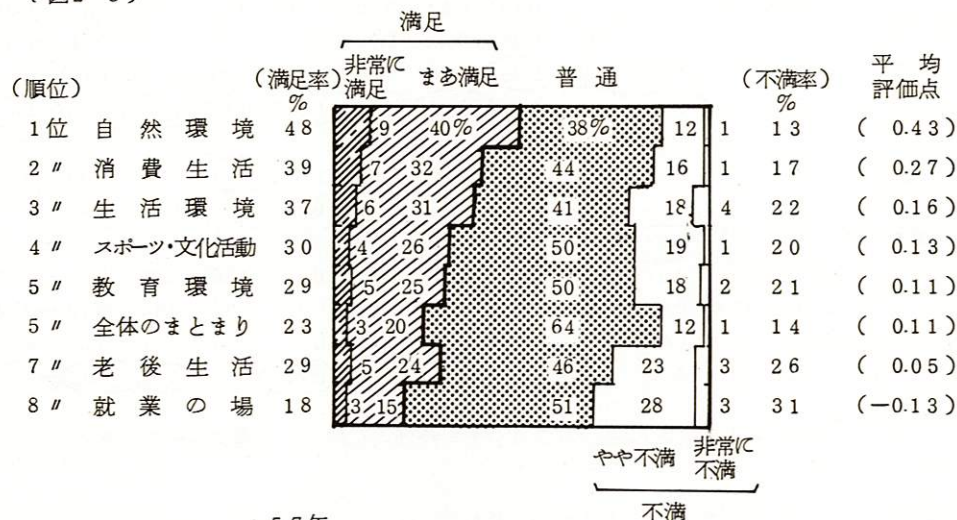
に要求し、関心が高まる傾向が強いとされている。ところが福生市民の場合に、ライフステージの影響と居住歴の影響とが重なっているようである。たとえば、一般的に「公園・遊び場」のニーズは家族形成期や家族成長前期など、遊びざかりの子どものいる人生段階のニーズであり、子どもを軸とした要求であるが、福生市では独身期に不満層が移行している。このような現象は、(表2-1)の居住年数別の結果で説明できる。10項目のう

ち7項目までは昭和55年以降転入の新市民が不満層となっている。このことは、居住歴の短い新市民が環境に不満を持つのであって、結果的に、この層が行政ニーズの多い家族形成期であるということである。つまり、ライフサイクルによる要因よりは、居住歴の要因が大きく働いているのではないと思われる。居住年数別のライフステージ構成(表2-2)をみると、昭和55年以降の転入市民の55%が家族形成期であり、独身期を含めると約7割(67%)に達している。なお、昭和30年代の転入市民は、現在、その半数近く(45%)が家族成熟期(第一子・独立)の熟年世代であり、昭和40年代の転入市民は、4割が家族成長前期(第一子・義務教育期)で占め、子どもの教育に関心を持つ世代となっている。

2-2. 全市的環境 …… 生活環境評価が急伸

4. [リスト3呈示] 次に福生市全体について伺いますが、あなたは、福生市の住み良さについて、ふだんどのように感じていますか。次の項目ひとつひとつについて、満足であるか、不満足であるかお答えください。

(図2-5)



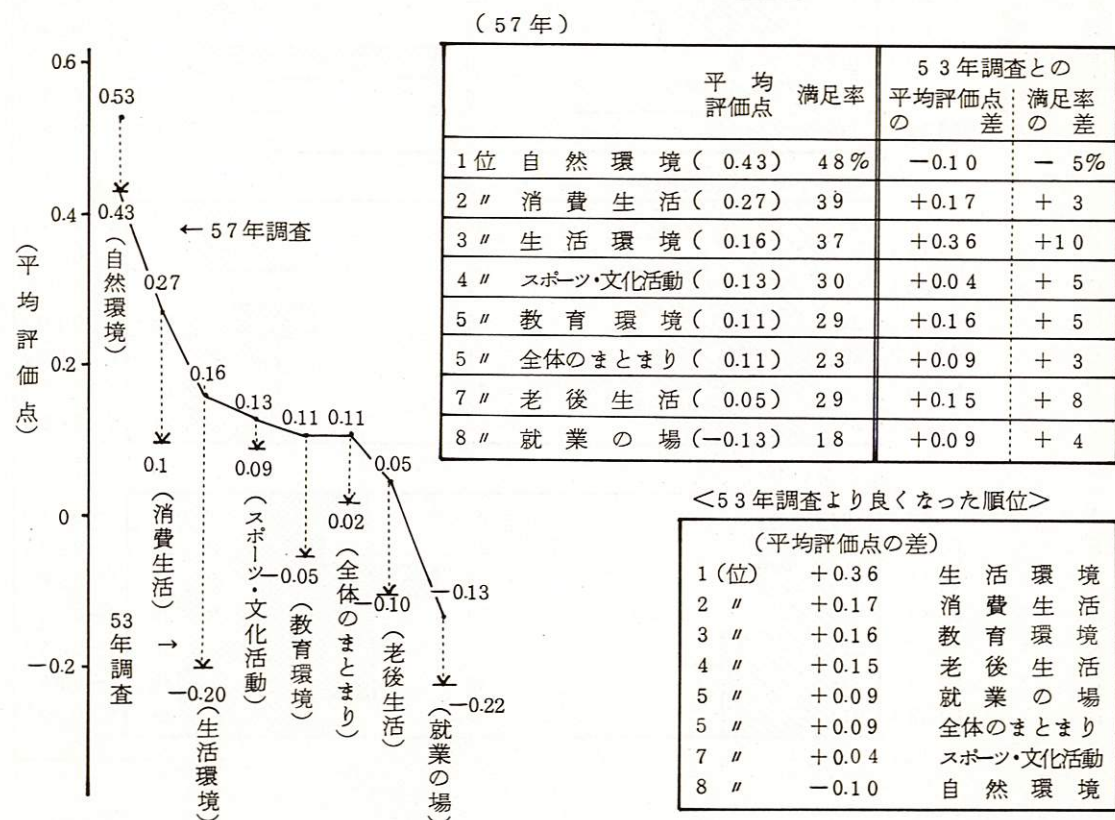
(注) ()は前回(53年)調査(斜線部分)

地域環境の評価は総じて良く、10項目のうち9項目は満足率が4割を超えたが、市全体の視点から判断する全市的要因8項目の評価では、「自然環境」が48%の満足率であるにとどまり、のこり7項目はすべて満足率は4割にみえない状態である。また前回(53年)調査と比較すると(図2-6)、「自然環境」の満足率は5%減少したが、のこりは少しずつ伸び、満足率の平均増加率は4%、平均評価点は0.12だけ良くなった。地域の生活環境評価は前回(53年)調査に比し、満足率で平均1.2%増加、平均評価点は0.24良くなっているので、全市的環境の評価好転の度合いは地域評価の約半分にとどまったといえる。身近かな地域生活の暮らしやすさはかなり良くなったと認めているが、教育環境、福祉環境、就労環境などの全市的な評価となると、判定はきびしい。ただし、「生活環境」は前回よりも平均評価点が0.36良くなっており、道路・排水その他都市基盤の整備が全市的に充実したと市民が評価している。

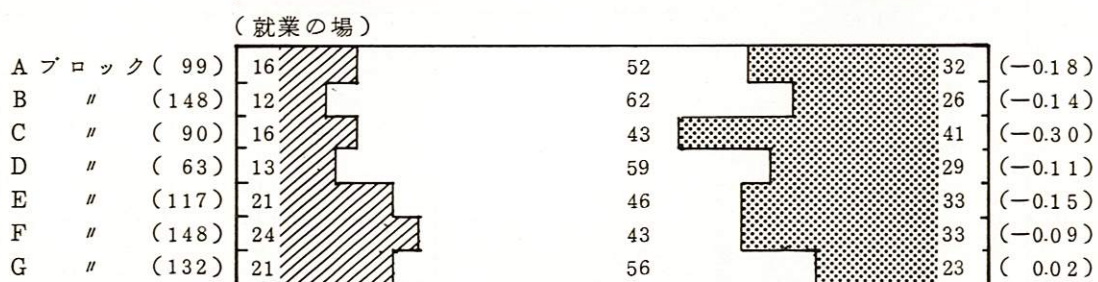
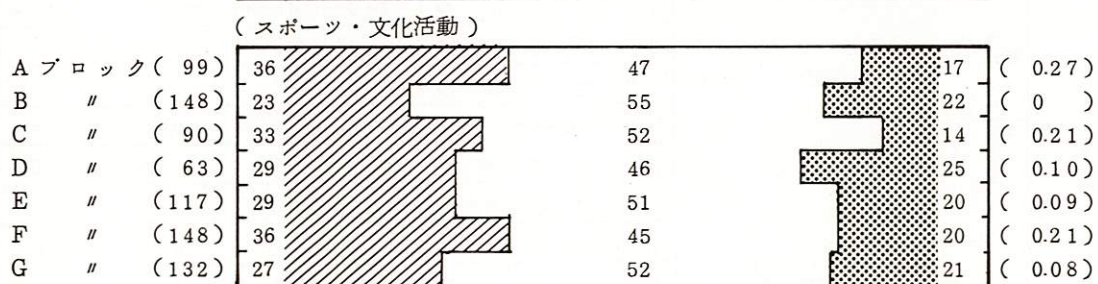
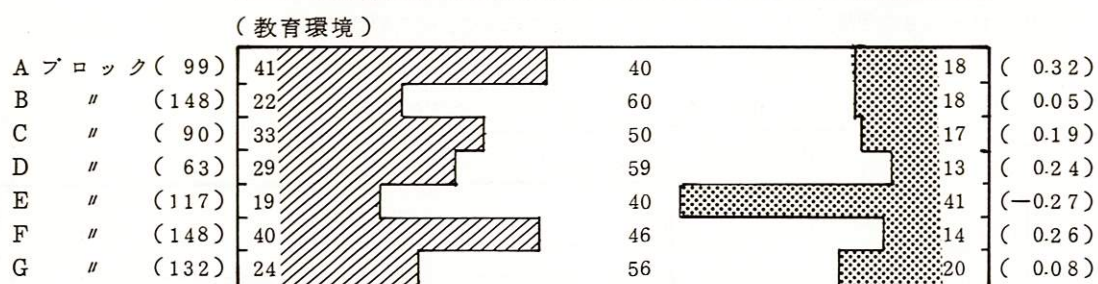
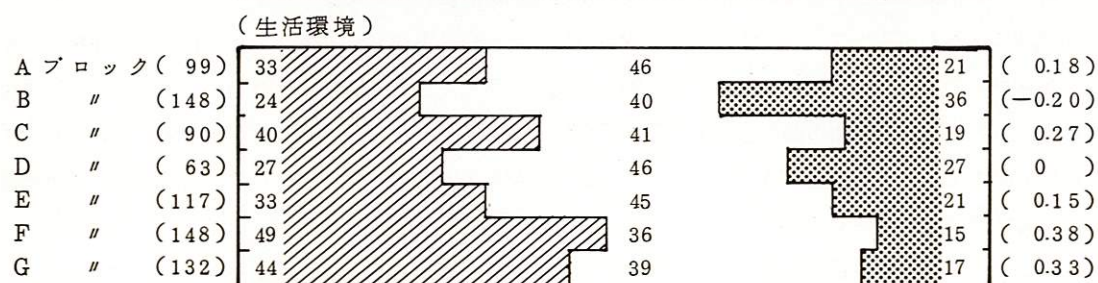
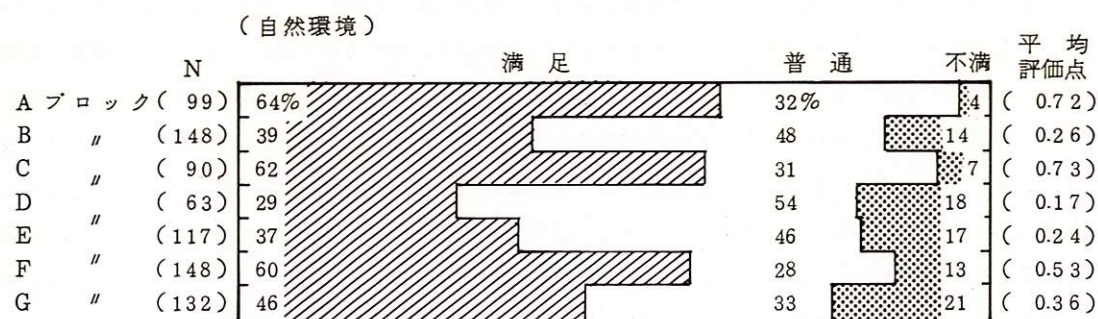
地域別にみると(図2-7)、地域評価の不満が市域の南半分に集中したというような特定傾向はみられない。項目別の最大不満地域は、Bブロック(鍋1・鍋2・富士見台他)が「生活環境」と「スポーツ・文化活動」、Cブロック(南北田園・志茂1他)が「全体のまとまり」「消費生活」「就業の場」、Dブロック(熊牛・牛1・牛2)が「自然環境」、Eブロック(志茂2・本町7・原ヶ谷戸)が「老後生活」「教育環境」と比較的分散している。

ところで、これら8項目の要因のうち、住み良さの判断に影響をあたえる要因はどれであろうか。もし、ある要因が住み良さの判断に大きく影響をあたえるのであれば、その要因の評価は「非常に住み良い」と

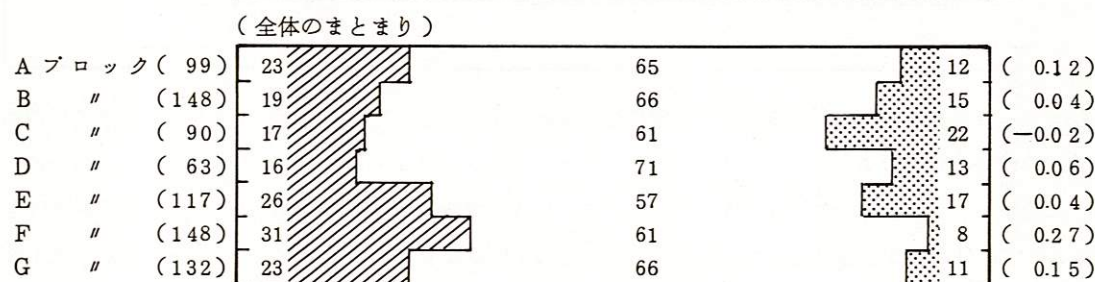
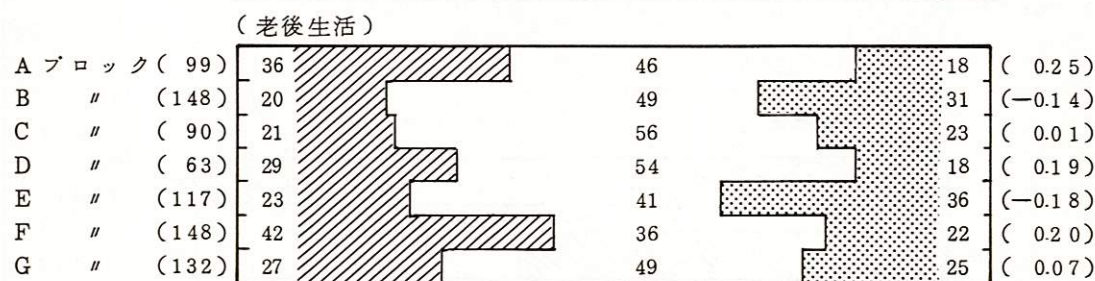
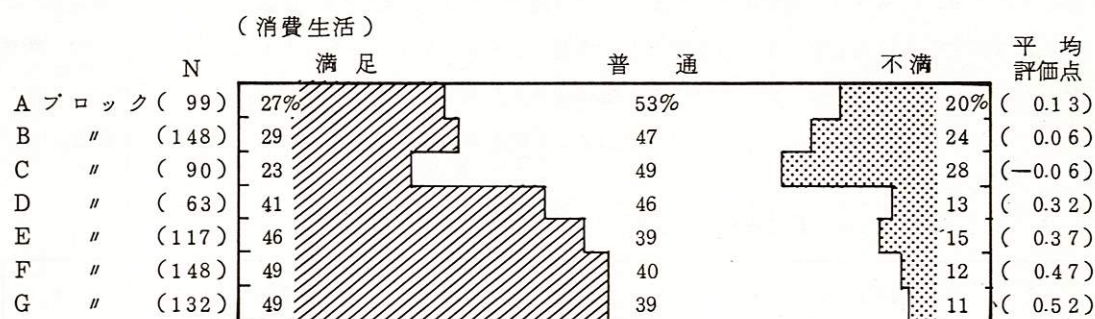
(図2-6) 53年と比較した「全市的環境」



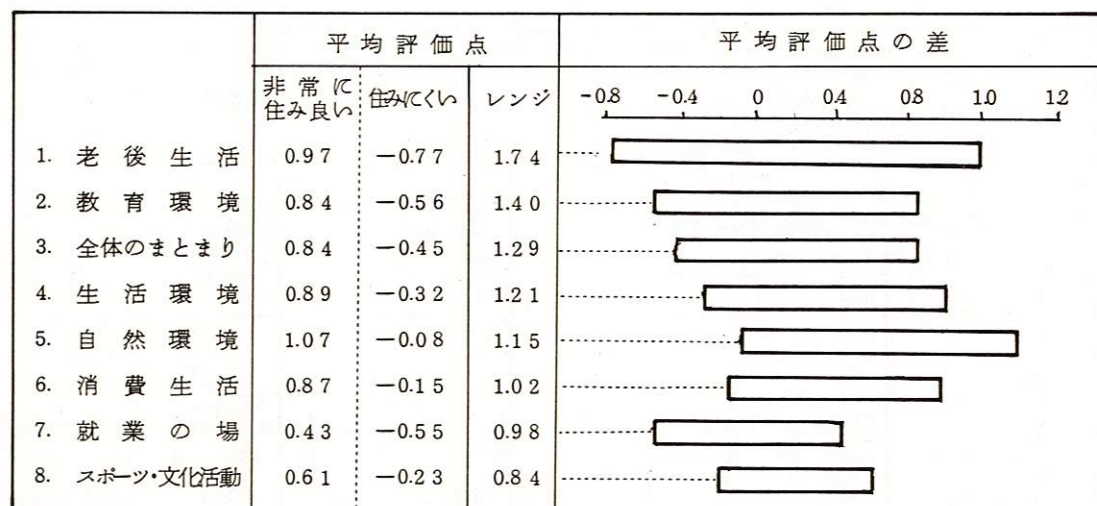
(図2-7) 地域別にみた「全市的環境」



(図2-7: つづき) 地域別にみた「全市的環境」

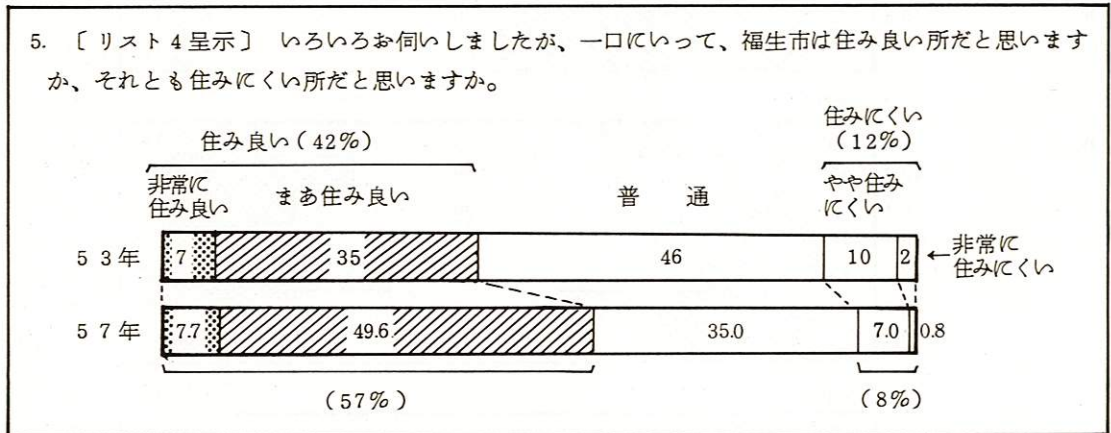


(図2-8) 住み良い・住みにくい判断に影響をあたえる環境は何か



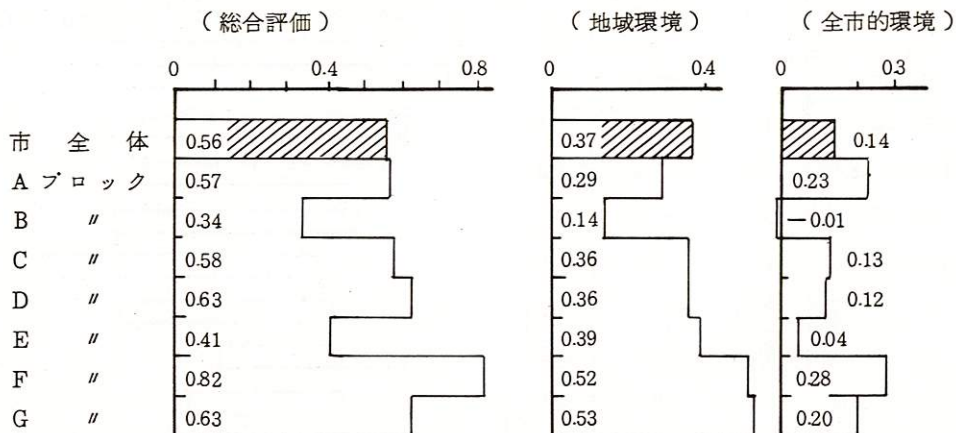
と「住みにくい」ひととのあいだで、大きな差が生ずるはずである。この評価差（レンジ）を要因別に比較することにより、住み良さの判断に寄与する度合いが推定できる。（図2-8）によると、平均評価点のレンジ（「非常に住み良い人」と「住みにくい人」との差）は「老後生活」がもっとも大であり、次いで「教育環境」がつづく。このことは、都市における「住み良さ」の問題が、将来の高齢化社会や21世紀にそなえた次代の人間形成の問題であり、未来社会を懸念する問題意識から生じていることを示すものである。

2-3. 総合評価 …… 「住み良い（57%）」が15%増加



福生市全体を総合しての住み良さは「非常に住み良い」「まあ住み良い」を合わせて57%であり、前回（53年）調査（42%）より15%伸びた。一方、住みにくい判定は「やや住みにくい」「非常に住みにくい」の合計8%であり、のこり35%は「普通」の中立評価であった。個別環境については、部分的にはきびしい評価もあったが、全体としてみた場合の判断としてはかなり良くなっているといえる。地域環境10項目の評価点の総平均は0.37、全市的環境8項目の総平均0.14に対して、総合評価の場合は0.56と非常に良く（図2-9）、全市的環境評価の4倍の水準に達している。

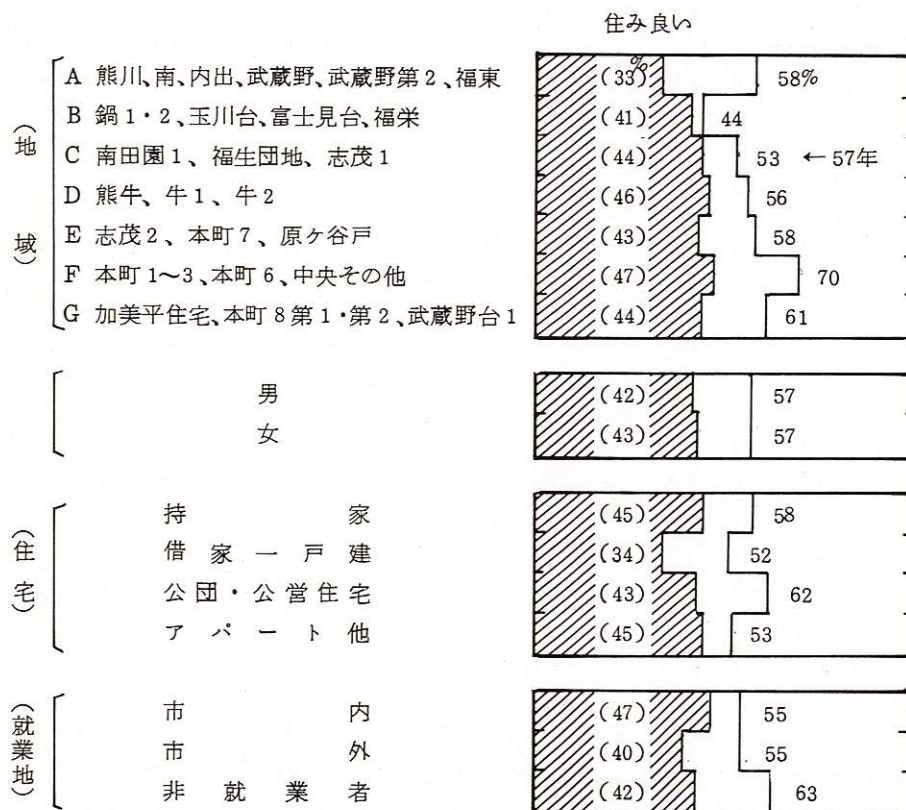
（図2-9） 地域別にみた「総合評価、地域環境、全市的環境」（平均評価点）



地域別の特徴としては、Fブロック（永田・本町1・加美2他）の総合評価が群を抜いて高い（0.82）こと、Bブロック（鍋1・鍋2・富士見台他）が最低（0.34）であることの2点であるが、この傾向は地域環境と全市的環境についても共通している（図2-9）。前回（53年）調査の場合は、Fブロック（永田・本町1・加美2他）が最高で、Aブロック（熊川・内出・福東他）が最低という関係であり、不満地域がAブロック（熊川・内出・福東他）からBブロック（鍋1・鍋2・富士見台他）に移行している。この移行は（図2-10）をみるとわかる。図2-10の斜線部分は53年調査の「住み良い」回答であり、外側の実線部分は今回の「住み良い」である。「住み良い」が特に伸びた地域はAブロック（熊川・内出・福東他）（25%増）とFブロック（永田・本町1・加美2他）（23%増）であるのに対して、現状維持に近いのはBブロック（鍋1・鍋2・富士見台他）（3%増）だけである。

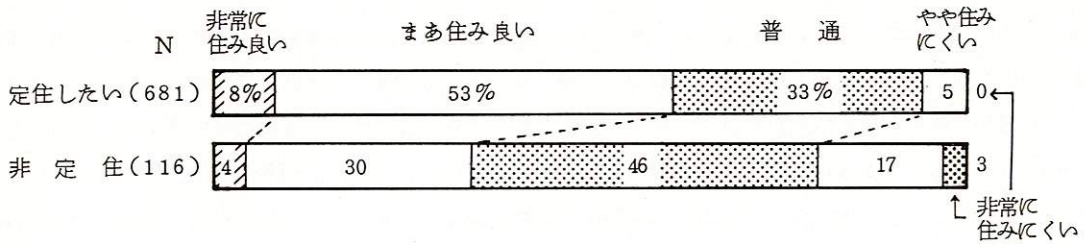
「住み良さ」の意識と定住意識とは一般的に密接な関係があるといわれている。図2-11に示したように、「定住したい」ひとの場合、「住み良い」は合計61%に達し「住みにくい」が5%にとどまるのに対して、「定住したくない（わからない）」ひとの場合、「住み良い」は合計34%と低く、「住みにくい」は20%に高まっている。「住み良さ」と「定住」との関係が必ずしも合致しないのは、自営者の場合である。

（図2-10） 属性別にみた「住み良さの53年との比較」



（注）斜線部分、（ ）内数字は前回（53年）調査

(図2-11) 定住意向別にみた「住み良さ」



(表2-3) 男女別、職業別、男女・職業別にみた「定住意向」と「住み良さ」

N		(定住意向)						(住み良さ)				
		(定住・計)	ずっと住み続け	当分の間住みたい	でに転移したい	移転する	わからない	非常に住み良い	まあ住み良い	普通	やや住みにくい	非常に住みにくい
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
市全体 (797)		85	62	24	4	4	6	8	50	35	7	1
男性 (410)		86	62	23	3	4	7	6	51	35	7	0
女性 (387)		85	61	24	5	4	5	9	48	35	7	1
自営者 (128)		95	78	17	2	—	3	9	46	36	8	1
事務職 (241)		78	52	26	8	6	8	4	48	39	9	0
労務職 (197)		86	58	28	3	5	7	5	54	32	7	2
専業主婦 (163)		86	63	23	5	5	4	12	47	36	5	1
無職 (68)		91	74	18	—	—	9	15	54	27	4	—
男性	自営 (89)	94	81	14	1	—	5	7	47	37	8	1
	事務 (167)	80	53	26	5	8	8	4	52	37	8	—
	労務 (125)	87	59	28	3	2	7	7	52	34	6	—
	無職 (29)	86	72	14	—	—	14	14	55	24	7	—
女性	自営 (39)	97	72	26	3	—	—	15	44	33	8	—
	事務 (74)	74	49	26	15	3	8	4	39	45	11	1
	労務 (72)	83	56	28	1	8	7	1	58	28	8	4
	主婦 (163)	86	63	23	5	5	4	12	47	36	5	1
無職 (39)		95	74	21	—	—	5	15	54	28	3	—

(表2-3)に示したとおり、自営者の定住意向は95%の最高率であるにもかかわらず、住み良い評価は55%で無職(69%)、専業主婦(59%)、労務職(59%)に比べて下位に低落している。自営者は営業上の立地条件を主とし、住居環境を従として住まいを決めるためこのような関係が出てきたものと思われる。

また、職業別の分析で注目したいのは、事務系勤め人の評価が低いことである。定住意向、住み良さがともに職業別中の最下位であり、地域環境の不満層となっている。ところで、男女別に職業を分けてみると

(表2-3)、環境評価の低さが、実は女性の事務系勤め人に由来し、そのために事務職全体を低率にしていることがわかる。たとえば、住み良さの場合、男性事務職56%（「非常に住み良い」「まあ住み良い」）に対して、女性事務職は43%で、男性より13%も低い。一般的に、女性は生活環境評価がきびしいといわれるが、結果をみると事務職以外にはそのような事実は見られないし、労務職の「住み良さ」は男性、女性とも同率(59%)である。